

# ごあいさつ



松前町長 白石勝也

松前町の皆様、明けましておめでとうございます。

今年の初夢はいかがでしたか。いい夢は、正夢になるといいですね。時間は途切れることなく過ぎていきますが、新しい年を迎え、元旦は大きな区切りがあるような気がします。文字どおり新しい気持ちになります。

去年11月、私は町民の皆様と一緒に、「まさき交流の翼」でタイを訪問しました。そこで身寄りのない子どもたちの施設「生き直しの学校」を訪れ、15歳までの子どもたち40人余りと交流会を持ちました。言葉は通じなくても、明るい子どもたちとたいへん心むむひとときを過ごしました。そして、何より私たちの心を打つたのは、不幸な星のもとに生まれきた子どもたちの透き通った、澄んだ目でした。子どもたちは、世界のどの地域にいても、平等に生きていく権利があり、私たち大人は、それを支えていく責任があるとの思いを強くし、子どもたちが、元気に明るく成長してほしいと願ってやみませんでした。

さて、今年は合併に向けて具体的に動き出す年です。

合併によってどのような新しいまちをつくらうとするのかは、この広報と同時にお届けする「市町村合併第4集」に詳しく掲載しておりますので、ここでは合併に対する基本的な考え方を改めて述べたいと思います。

今回の合併には、国や地方を取り巻く厳しい財政事情や少子高齢社会への対応、地方分権などといった背景があることはいうまでもありません。しかし、同時に今の市町村は、そのほとんどが昭和30年前後の昭和の大合併によって誕生したものです。それから半世紀、私たちの生活は、交通、情報、制度、サービスなどあらゆる面で激変してきています。市町村も、その果たす役割や行政サービスの方法などを見直し、21世紀にふさわしい将来を見通した姿になるべきだと思います。合併は、単に市町村の数を減らせればいいというものではなく、どんな新しいまちをつくるのか、基本的な考え方や、理念をしっかりとしてお互いに相手の立場を尊重し合う市町村が手を携えてこそ成り立つものだと思います。争いやエゴを通すのではなく、譲り合い、

助け合う気持ちがなくして、合併は前を向いて進みません。これからも町議会と相談しながら、また、住民の皆さんの意見も十分聴きながら取り組んでいきたいと思えます。今年、私にとりまして一期4年の最後の年です。

「見える、分かる、クリアな町政」をスローガンに、職員意識改革も進んできました。今年3月末に念願の学校給食センターも完成し、町内の小・中学生に、よりおいしい給食を提供できると思えます。また、文化生活に欠かせない公共下水道事業や筒井浸水対策、町内の東西幹線道路になる町道筒井徳丸線の促進、県道八倉松前線バイパスなど継続事業の推進に努めてまいります。

日本経済は依然として、先行き不透明ですし、国政も不安定な状況にあります。松前町の財政も厳しくなっています。松前町の財政も厳しくなっています。松前町の財政も厳しくなっています。松前町の財政も厳しくなっています。

皆様にとりまして、今年一年が良い日々でありますよう心よりお祈り申し上げます。



謹んで  
新年のお慶びを  
申し上げます

助役

石川 晋吾

収入役

仙波 勲

教育長

赤星 皓一